



青年農業者等の営農技術向上をめざして ～農業基礎研修・部門別研修の開催～

新規就農された方々が少しでも早く農業で目標とする所得確保ができるように、農政普及課では関係機関や指導農業士(新規就農者や青年農業者の営農や農家生活について助言をしていただくために県が認定した農業者)の方々と連携し、農業基礎研修会や部門別研修会を毎年開催しています。

農業基礎研修会は、新規就農して間もない方々を対象に、指導農業士の講話、土づくりの基礎、病害虫対策、農作業安全、営農生活設計などをテーマに3回にわけ、講義形式で実施しました。

また、部門別研修会は茶・園芸・畜産の部門ごとに新規就農者や青年農業者の方々を対象に室内研修と現地ほ場研修を組み合わせ実施しました。

どの研修でも、参加した研修生は熱心にメモをとり、質問する姿がみられました。

鹿児島地域では毎年10人以上の方々が新規就農されています。皆様が早く営農で自立されますように今後も引き続き必要な支援をおこなってまいります。

農業基礎研修会



開講式 (7/5)



土づくり研修の一コマ (7/12)



刈払機の安全使用と手入れ (7/25)

部門別研修会



茶部門研修 (9/20)



畜産部門研修 (10/5)



園芸部門研修 (10/24)

桜島地区で牛の放牧を実証しました！

1 目的・概要

飼料等の生産資材価格高騰を背景に生産コストの低減を図るため桜島藤野町に荒廃農地を活用した放牧実証ほを設置しました。今回の実証ほは、崖等の立地条件から脱柵防止のために、全体を電気柵で囲い、そのうち崖に面した約100mにパイプ柵を設置しました。パイプ柵の費用は約35万円、電気柵は約13万円でした。放牧した牛は12月に分娩予定の繁殖雌牛2頭で、放牧開始から36日間は野草のみで飼養し、以降は飼料を給与しながら11月15日まで放牧しました。放牧場は、カヤ類などのイネ科植物やセイタカアワダチソウを中心に牛が好む野草が多く、日陰樹もありました。



図1 入牧直後(8/22)

〈実証ほの概要〉

【設置日】令和5年8月22日

【場所】桜島藤野町

【面積】48 a

【放牧牛】繁殖雌牛2頭

【外周】280m

【設置柵】

電気柵280m 2段

パイプ柵100m 1段(一部2段)



カヤ類



セイタカアワダチソウ



日陰樹



ノイバラ



オナモミ



イノシシ足跡

2 入牧後の状況

入牧の約1か月後、放牧場内の採食を好まない野草のノイバラは踏まれ減少し、カナムグラは採食され始めていました。有毒なオナモミはそのまま残っていたので人力で取り除きました。また、柵設置前にあったイノシシの痕跡は、設置後見られなくなりました。また、嗜好性のある野草はほぼ採食され、裸地が目立つようになりました。(図3)

3 管理作業等

放牧中の主な作業は、毎日の見回り、電気柵の電圧確認、水運搬、柵下の草刈りでした。

水運搬(500L)は、週に一回30分、草刈りは20日に一回実施し、入牧から40日間の一日の作業時間は平均17.1分でした。また、36日間の放牧で **1頭当たり約1万円の飼料費を削減**することが出来ました。



図2 入牧前(6/15)



図3 入牧後36日(9/27)



放牧地における成雌牛の採食草量(日本飼養標準)

体重	DM(kg)	TDN(kg)	WCS用イネ乾物単価	放牧日数
450kg	7.0/日	3.4/日	40円/乾物kg	36日

※DM:乾物量, TDN:可消化養分総量

7.0kg/日 × 40円/乾物kg × 36日 = **10,080円の削減**

飼料価格高騰のいま、放牧を検討してみてもいいでしょうか？

糖含有珪藻土による土壤還元消毒について

今年度、鹿児島地域振興局では周年栽培する軟弱野菜ハウスにおける夏期の土壤病害対策として、糖含有珪藻土を活用した土壤還元消毒の実証に取り組みました。今回は、本消毒法の特徴を紹介します。

特徴1 環境及び作業者への負担が少ない

一般的に土壤病害対策には、クロルピクリン剤やダゾメット剤等の**土壤燻蒸剤**が使用されますが、土壤燻蒸剤は環境及び作業者への負担が大きいです。一方、土壤還元消毒は、**環境にやさしく**、作業者への**負担も少ない**特徴があります。

特徴2 土壤深層まで高い消毒効果

米ぬかやふすまによる従来の土壤還元消毒や**土壤燻蒸剤**に比べて、土壤の**深さ60cmまで高い消毒効果**を得られることが分かっています。糖含有珪藻土では、土中深くに生息している**フザリウム菌**や**青枯病菌**、**有害線虫類**等への消毒効果も確認されています。

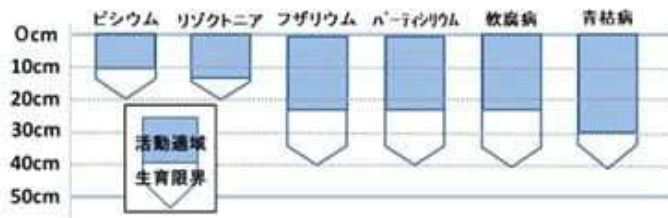


図1 各病原菌の土壤中生息深度



図2 消毒後のホウレンソウ生育状況

特徴3 還元臭が少ない

米ぬかやふすまによる土壤還元消毒に比べて消毒時の**還元臭が少ない**ため、住宅街にあるハウスでも利用しやすい消毒法です。

今回は、糖含有珪藻土を利用した土壤還元消毒の特徴を紹介しました。次号No.243号では、本消毒法の具体的な消毒手順を紹介しますので、来年の夏期の土壤病害対策に活用を検討してみてください。

青果用さつまいもは、サツマイモ基腐病の発生に注意を!!

さつまいものサツマイモ基腐病に対する抵抗性程度は、品種間差があります。「べにはるか」、「安納いも」、「高系14号」、「コガネセンガン」は、「**やや弱い**」から「**弱い**」品種です。このため、本県で栽培されている青果用さつまいもは、サツマイモ基腐病の発生には十分注意する必要があります。

本年に収穫したほ場では、株基の黒変、つるの枯死、塊根の腐敗はなかったでしょうか。このような症状がみられた場合には、サツマイモ基腐病に感染していることが疑われるので、JA、市、農政普及課のさつまいも担当の技術職員に診断をお願いしてください。

サツマイモ基腐病の発生が認められた場合には、**ほ場の発生状況に適した次年産対策**が必要となります。

地上部の枯死株の発生が4割を超える多発生ほ場では、**さつまいも以外の野菜等の植え付け**をおすすめします。また、発生が少～中程度のほ場では、総合的な対策を行う必要があります。この対策の詳細は、関係機関・団体のさつまいも担当の技術職員にお問い合わせください。



図1 株基の黒変



図2 塊根の腐敗

農業経営や就農の悩みは、 かごしま農業経営・就農支援センターにご相談を!!

かごしま農業経営・就農支援センターは、農業経営の課題を解決するため、専門家等からなる支援チームを派遣しています。また、就農に関する相談にも対応いたします。

経営に関するサポートは、農業経営を規模拡大したい、農業経営を法人化したい、後継者に事業を継承するにはどうしたらいい、後継者がいないので経営を引き継ぐ人はいないか等の相談に対応いたします。就農に関するサポートは、農業を始めるにはどうしたらいいの、農地の確保はどうしたらよいか等の相談に対応いたします。

相談したい場合には、まず最寄りの窓口にお知らせください。

- 〈サテライト窓口〉 鹿児島地域振興局農政普及課
Tel 099-805-7372
- 〈経営サポート担当〉 鹿児島県農政部経営技術課内 農業経営相談コーディネーター
Tel 099-286-3152
- 〈就農サポート担当〉 公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会内 就農アドバイザー
Tel 099-213-7223

令和5年度後半のパソコン簿記記帳会の案内です

鹿児島市担い手育成対策部会と共催で、本年度も下記の日時・会場でパソコン簿記記帳会を開催しています。青色申告に取り組む方は誰でも参加できますが、ノートパソコンと農業簿記ソフト(ソリマチ株式会社)の準備が必要です。

この農業簿記ソフトは、一般の会計ソフトとは違い農業に特化しているのが特徴で、予め農業でよく発生する取引例とその仕訳が登録されており、初めての方でも取引例を選択することで仕訳の入力が簡単にできます。

会場(時間)	令和6年1月	令和6年2月
都市農業センター (13:30~16:00)	10日(水)	7日(水)
鹿児島市吉田支所 (13:30~16:00)	17日(水)	8日(木)
鹿児島市桜島支所 (13:30~16:00)	24日(水)	14日(水)
鹿児島市喜入支所 (13:30~16:00)	31日(水)	15日(木)
鹿児島地域振興局 (9:00~16:00)		21日(水) 22日(木)

〈新規就農者の方〉

新たに農業を始めた方が、青色申告を行う場合は、税務署へ青色申告承認申請書を提出する必要があります。

〈収入保険制度への加入をお考えの方〉

加入には、青色申告を行っていることが要件となり、加入申請時に青色申告の実績が1年分あれば加入できます。就農して間もない方や、白色申告を行っている方は是非青色申告に取り組んでください。